2015年 栽培日記

JA滋賀蒲生町

Vol.1 土づくり編

【2015.02.25】

H24年産米の収穫も無事に終わり、27年産米に向けての準備が進んでいます！今年も美味しいお米になりますように！

土壌は放っておくと腐植の消耗・肥料成分の流出・作物による吸収によりどんどん痩せていきます。そのため、継続的な土づくりをすることが大切になります。土づくりには堆肥や稲わらなどの有機物の施用、深耕、土改資材の散布などがあげられます。

早いところでは、11月頃から『とれ太郎』という土改資材をトラクターや動力散布機で田んぼに散布します。稲を育てるにはケイ酸が必要といわれています。しかし、稲わらや灌漑水などから供給されるケイ酸では足りないといわれています。そこで、不十分なケイ酸を補うために土改資材『とれ太郎』を散布します。また、pHの改善の効果もあり、それによりカドミウム吸収の抑制にも効果が期待でます。

トラクターにブロードキャスターをつけて、豆跡の圃場に散布している様子です。
JAでは、委託散布も行っています。

12月中旬からは前年に大豆を作付けし、今年は水稲を作付けする圃場に散布しています。しかし今年は、年始から雪や雨の日が多く大豆の収穫が遅れ、そのため作業もやや遅れていましたが、ようやく散布が無事に終わろうとしています。

今後の水稲の生育に大きく影響してくる土づくり、しっかり行い良質なお米が育つ環境作りをしましょう！